

(中間C)

評価委員会総合評価

研究課題名：エアロゾル・雲・微量気体に関するリモートセンシング技術の高度化に関する基礎研究

評価委員会

委員長：加納裕二

委員：菰澤 浩、露木 義、鬼頭昭雄、中村誠臣、上野 充、三上正男、
小林隆久、横田 崇、蒲地政文、緑川 貴、高橋 宙

評価年月日：平成24年3月13日

1. 総合評価

- | | | |
|--------------|--|---|
| (1) 継続の可否 | ☒ 継続 | ☐ 中止 |
| (2) 修正の必要の有無 | ☐ 修正の必要あり | ☒ 修正の必要なし |

2. 総合所見

ライダーと衛星情報から、エアロゾル・微量気体・雲物理量情報を得る本研究は、同化技術を用いた数値モデルの高度化につながる重要な研究である。これまで、ライダーからのエアロゾル解析技術の高度化と衛星のエアロゾル解析に係わる基礎的研究が進められており、副課題1の進捗に遅れが見られる。

今後の基盤的観測データとして活用が期待できるが、ライダー関連ではこれまでにオゾン、水蒸気等多くのライダーが開発されているにもかかわらず、気象業務に成果があまり見えていない。観測から得ようとしている物理量をどのように輸送モデルの検証や高度化につなげるのかの道筋も不明確である。

今後、到達目標である輸送モデルの評価・検証を達成するためには、実際の観測、観測結果の検証を急ぐ必要がある。検証を目指すターゲットとなるモデル上の物理量やプロセスを明確に位置づけてより重点的に取り組むことや、重要性並びに本研究期間終了までにまとめた成果の得られる見通しを判断基準として研究項目に優先順位をつけて取り組むなど、効率的に研究を進めてもらい、本研究の成果を他の所内研究課題や本庁業務へ波及できるようにして欲しい。